

## タウンミーティング2021第2回【少子化・子育て】意見交換要旨

### ● 日 時

令和3年7月28日（水） 10:00～11:30

### ● 会 場

すこやかセンター2階 多目的ホール

### ● 参加者

清元 秀泰 姫路市長

子育て世代のママ 5名

保育を学ぶ学生 5名

### ● 意見交換の主な内容

#### 【問】結婚しない選択肢も増える中結婚したい人を増やすには？

【意見】 現在進行形で、結婚している人が幸せなのか、それとも結婚していない人が幸せなのかという答えは出ないが、結婚したいという人がいるなら、市も頑張って、結婚できる出会いの場を増やしたり、男性同士・女性同士の結婚を認める等、今まではあまりない企画をするのが早道ではないかと思う。

今はコロナ禍で特に出会いの場が少ないように思うし、姫路市だけで考えず、県内の広い範囲で婚活の様な事をしてよと思う。また、大阪等の少し離れた地域で、「姫路に来てよ」という方向けの婚活の企画もよと思う。

【意見】 難しいテーマであるが、幸せは一つ一つ小さい幸せの積み重ねだと思う。私は、子どもを産むまでは仕事に没頭しており、仕事をするのが幸せと思っていたが、子どもを出産し子育てし、子どもがいるのがこんなに幸せということはこの年になって初めて知った。それを発信していく取組があるとよと思う。結婚・子育ては大変だと思っている学生も多いと思うが、すごく幸せな面があるということを伝えたい。

【意見】 私は、0歳から3歳の赤ちゃんと、そのママが教育機関を訪問する出前授業の活動を行っており、その中で、10代や20代の若者と接する機会が多い。若者には「結婚や出産は大変」というイメージやネガティブワードなどの情報ばかりが伝わっており、子育ては大変なことも沢山あるが、それを超える素晴らしさや喜びがあることを知る機会が、本当に少ないと実感している。

一方で、「産めよ、育てよ」というメッセージばかりが伝わってもいけないと気を付けており、「『私は』結婚して、子どもを産んで、幸せです」という「アイ」メッセージで伝えている。こういう機会がこれから増えていくと、何か一つ解決に繋がるのではないかと思う。よく「赤ちゃん先生」クラスを受ける前と、受けた後の気持ちの変化についてのアンケートを取ると前向きな回答を頂くので、一定の効果があると思う。

【意見】 私は、未婚であるが、結婚については悩んでいる。「夫が手伝ってくれない人も結構いる」とテレビで見ると、自分一人で子どもを世話できないと感じて「結婚＝幸せ」ではない

というマイナスなイメージだった。しかし、先ほどママの方から意見を聞き「そういう生き方もあるんだな」と思い、何かを得たような気がする。

【意見】 私は結婚に前向きな意見を持っている。学校の実習で実際に子どもと関わる機会があり、日々出来なかった事ができるようになっていく小さい子の姿を見たときに、自分の子どもが目の前で成長していくのは素晴らしいことだと感じた。学生たちがそういう機会を持つことができたなら、子育てに対する不安な部分以上に、楽しさや嬉しさを感じることができると思う。

【意見】 私は、結婚したいとあまり思っていないが、周りには結婚願望がある友人が多い。出会いの場を増やす、LGBTQの結婚を認める等で、結婚する人は増えるのではないかとと思う。

【意見】 私は現在19歳で、25歳で結婚したいと思っていたが、本当に実年齢になった時に結婚したいかといわれると、少し不安に思うところがある。友人とは「出会いがない」という話になり、その解消のために、市で男女の出会いのイベントを開く、若いカップルに向けて長続きするような講座を開くなど、高校生の時から他校との交流を増やして異性交流を行うことができたならよいと思う。

【市長】 私が結婚したときは、研修医でアメリカにいた。アメリカの田舎で子どもが年子で生まれた頃は月給が8万3千円ぐらいだったが、子どもがいる生活は本当に楽しかった。今も当時の写真を見ると、あの時代はよかったと思う。

最初から「子どもを育てるには1千万かかる」と思ってしまうと、結婚できないのはいいか。「思い切って結婚しちゃいました」という方にも、支援をしたい。出会いの場は、ネット等に様々なサイトがあるが、中には事件に巻き込まれたりする話を聞くので不安だという人もいると思う。行政が出会いの場を作るなら身元を保障できる形で、ネットのマッチング等を支援するというのも大事かもしれない。皆さんの意見を聞き、収入は少なくとも、結婚したい時に、後ろを押してくれるような制度を作りたいと思った。

### **【問】理想の子どもの数と現実には差があるのは、どのような理由があると思うか？**

【意見】 今、正社員で働いているが、保育料が本当に高い。金銭的な問題で「3人欲しいが、やはり2人で」というのが今の状況である。2人目半額、3人目無料になるが兄弟の年齢が関係しており、上の子が保育園にいないと適用されない。間隔を詰めて産まないで、3人目無料にならないが、正社員で働いていると産休・育休で抜け辛い。年齢制限が外れれば、3人目産もうという気持ちになる。

私は母乳もあまり出なかったため、ミルク代も結構かかる。他の自治体では3か月から1歳までは、月に1回3000円ほどのミルクやオムツが宅配されるという制度が有るところがあるようなので、そういう支援があるとよい。

【意見】 私はフリーランスの仕事をしているが、会社員でないため産休や育休は無い。仕事を辞めたらそこで経済的にも収入は0になるという様な状況で、出産を決めるまで一つの決断が必要だった。仕事に戻りたいと思って保育園を探しても、なかなか0歳枠や1歳枠は難しいというものもあった。仕事を頑張りたいと思うと産むタイミングが難しい側面がある。色々な経済的な支援も重要だが、希望したときにすぐに保育園に入れるという安心感がないと、まだまだ産みづらい。

【意見】 私の夫は大学を奨学金で通い、やっと払い終わったところであり、夫は「奨学金で行かせると、大学を卒業してから借金からのスタートになるため、とてもそれを娘にさせたくない。だから、しっかり大学まで子ども達を行かせるには今の人数が限界」と考えている。

【市長】 ミルクの話が出たが、うちもミルクだったため母乳が出る人が本当に羨ましかった。吸い口の煮沸作業があり旅行にも行きにくく、ミルクを変えると味が違うから飲んでくれなかった。他の自治体で行われているオムツやミルクを贈る事業はすごくよいと思う。しかし母乳がたくさん出て不要な方もいるし、ミルクにも嗜好があるので飲まないかもしれない。汎用性の高い紙おむつも意外と子どもの成長にバラつきがありSサイズは小さくなって使えないという事もあり得るので、もっときめ細かく「子育て支援クーポン」みたいなものがよいかもしれない。

保育料が高いのは私も経験した。産みたい方の後押しができるような制度が重要だと思う。

あと、奨学金のケースは非常に重要で、私と家内も奨学金を20年間ぐらい払い続けていたので、結構苦しかった。今、姫路に帰って姫路で働いてくれる人の奨学金を半分応援するという制度を、移住定住プランの中に入れていっている。そういう形で、奨学金を借りても、故郷に帰るなら大丈夫という安心プランを将来設計の中に入れてもらい、子どもをたくさんほしいと思っている方の後押しができるような制度を作っていきたいと思う。

### **【問】 姫路市の子育てについてのイメージや意見は？**

【意見】 移住をしてきた当初に「神戸子育て100」という雑誌を友達に貰った。子育てのサービスが100個書いてあるすごくよい雑誌で、「ここに引っ越せばよかった」と思った。

姫路で子育てガイドブックを貰い、よく見てみると、以前住んでいた子育てに力を入れている自治体と比べても遜色ないと思った。姫路も、すごく頑張っていると思うが、来たばかりの頃は私に情報が入ってこなかった。以前住んでいた自治体では、ベビーカーで議会に出たり子どもを抱っこしたまま演説する子育て中の“ママ議員”がおり、その女性議員が「子育て頑張るぞ」という感じで、SNSでもリアルでも頻繁に発信をしていた。よくSNSを見るので、そこで情報をキャッチできていたが、姫路に来てそういう情報をあまり引っ張れなかった。サービスはすごくあるが伝わってこず、他自治体がすごくキラキラに見えていた時期があった。よく見ると他地域よりもよいポイントもあるので、いかに発信していくかという課題があるのではないかと感じている。

【意見】 私は、引っ越してきて少し物足りないと思った。もっとママたちと繋がる場所があればよいと感じる。すこやかセンターでNP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラムに参加したが、一時保育をして子育ての悩みなどを大人とだけ話せる貴重な時間だった。同じような悩みを持つママと子育ての事を話すととても元気になる。素晴らしいプログラムなのでこういう取組が増えると嬉しい。

また、すこやかセンターでアンガーマネジメントのプログラムに夫と参加し「子育ては皆でするんだ」とすごく勉強になったので、ママだけが子育てをするというのではなく、パパも一緒に参加できるプログラムがあったら嬉しいと思う。

パパも一緒又はパパだけでも連れていけるので、姫路にも「じゃぶじゃぶ池」を作って欲

しい。

私は主に自転車で移動するが、特にお城の周りが滑りやすいので、もう少し自転車が通りやすい、段差のない道にして頂けると嬉しい。

ファミサポ（ファミリーサポートセンター）に登録したが、なかなか希望するようにならないので、ファミサポの援助会員が増えてくれると利用しやすいと思う。

以前住んでいた地域に「赤ちゃんの駅」というベビーカーで子どもを連れて行けて気軽にオムツ交換や授乳をする場所がいろんなお店にあった。姫路の街中にできると、ベビーカーで移動するママも快適に、気分転換もできてよいと思う。

最後に、夫からの意見だが、姫路は男性の育児休暇の取得がすごく低いと思うので、育児休暇の取得を推進してほしい。

**【意見】** 私は姫路以外で子育てをしたことが無いので比較できないが、不満はなく満足している。とても子育てしやすい街だと思う。東京に住んでいたこともあるが東京は人も多く、情報も新しすぎて親がついていけないところがあった。姫路は田舎過ぎず都会過ぎず、子どもをのんびり育てるにはすごくよい環境だと私は思っている。

今後期待する事として、この1月にコロナ禍の中で出産し、PCR検査も夫婦共に受けて、夫にも立ち会ってもらって出産できたが、その時にとっても困ったのが、上の子の預け先だった。夜中や園に行くお迎えの時間に陣痛がきたらと心配だったので、もう一步、検討していただけたると嬉しい。

あともう一点が、姫路にIターンで来てもらうのは少し難しいが、Uターンで帰ってきてもらうことは、とても期待できると思っている。祭りや姫路城もあり皆さん姫路愛が強いと思うので、その感情を育んでいくと、一時的に東京や大阪に行っても、結婚を機会に姫路に帰ろうとなるのではないかと。市内に夫の両親がいるが、頻繁に子どもを預かってもらっている。すごく助かっており、そこには夫が小さかった頃から見に来てくれたお祖母ちゃんたちが沢山いる。そういう環境の中で、皆で子育てをしてももらう良さをすごく感じているので、自分が育ってきた地域で結婚をして、子育てをする良さを知ってもらう機会があればよいのではないかと思った。

**【意見】** 私は神戸出身で、結婚を機に姫路に来たが、姫路市は近いようで、あまり来る機会もなく、イメージが湧かなかった。いざ住んでみると「じゃぶじゃぶ池」が無いのは残念だが、動物園、水族園、美術館があり、公園も遊べる所が沢山あるのでとても施設が充実して子育てしやすい街であると感じている。しかし「子育て支援の情報がなかなか入りにくい」と感じており、産んで数か月はじっくり冊子を見る時間も無いので、アプリのようなものがあればよいと思う。

例えば、あいめっせで行われている映画鑑賞会等の、ママが子どもから離れて参加できるようなイベント等の情報を簡単にアプリでチェックできれば、より情報を受け取りやすいのではないかと思った。

子育てをしていて楽しい事は、やはり子どもの笑顔を見ることだ。大変でしんどいこともあるが、それ以上の喜びをくれたり、日々の中の本当に些細な、親でしか体験できない可愛さを、一番身近で見られることはとても幸せだと思う。

**【意見】** 他都市と比べることができないが、姫路のことがわからずに引っ越して来た時に、子ども

が出来た時を見据えて、駅の近くなら便利に違いないと思い引っ越して来た。しかし、駅の近くには児童館がなく、0歳児を自転車に乗せることも出来ず、ベビーカーで行くところがないことに気づいた。ピオレ姫路ができていたので、ピオレ姫路を上から下まで移動して、また下から上までずっと移動するという毎日を過ごしたが、毎日毎日行っていると、ずっと同じ人が行き来しており意外と同じことをしている人が多いと気付いた。ピオレ姫路に子どもの施設ができるのはすごくよいと思う。

子どもは現在4歳だが、私は仕事を辞めて、4歳まで自分で家庭保育をしようと決めた。が、児童館に行くと、うちの子だけが立って喋っているという状態だ。3歳から保育料が無料なので、みんな2歳からプレ保育園に入れてしまっているの、あとは赤ちゃんしかいない。うちの子が行くと「うちの子が来たのでおもちゃ出さない」という感じで行きにくい雰囲気がある。働かないと決めて育児をする人もいると思うので、そういった方を対象とした3、4歳児向けのプログラムや行きやすい施設があれば、姫路に引っ越して来たいと思う人も増えるのではないかとと思う。

あと、駅の南に自転車置き場がないことに、困っている。

**【市長】** 「発信力が弱い」とよく言われる。よい取組があっても、伝わらないと意味がないから、確かにアプリは大事だと思う。

ママ同士の繋がりが弱いという話と、子どもが生まれる際に上の子を預ける所がないという点について、配慮をもう少しする必要があると思う。できれば、役所でやりすぎず、子育てを経験した人、ボランティアネットワークのようなものを、色々支援しながら立ち上げて、子どもを育てることが地域みんなの一つの目標で、生きがいややりがいを持てるようなシステムを作ったほうがよいのかなとも思う。場合によっては、イクメン育成の為に自分の子どもではなく、他人の子どものために育休を取って、お父さんの子育て教室や体験などにボランティアで参加してもらいたいものもあるかもしれない。他人の子どもも自分の子どももそうだが、男性がもう少し子育ての理解ができるような取組も必要だと思う。

駅近に子どもの施設がないとのご意見だが、今年の12月にピオレ姫路に子育て支援拠点を開設する予定だ。子育てに優しい街を、すべてのエリアにつくるのは少し難しい。「じゃぶじゃぶ池」も昔は、子どもが田んぼに入って遊んでいたような感覚だと思うが、子どものころの体験は残るので、大事だと思う。

私も自転車によく乗るが、道路の石畳の石が外れており転んだことがある。駐輪場の話も含め、バリアフリーの観点も大事だと思う。取り組まなければならないことが多いので、政策にできる部分はどんどん取り入れていきたい。

男性の育児休暇の取得向上については、まず姫路市役所の職員から行わないと、民間にも普及しない。取得率の悪いところは、一人の人が責任を持って最後まで仕事を行うべきと思っている上司が多いと思う。しかし日頃から、仕事のリスクヘッジも含めて複数人でチームを組み、ジョブシェアに取り組む必要があるのではないかと。コロナ禍で、いかに社会全体で仕事や悩み事もシェアをするか、アプリなどを駆使してもっと分りやすくすべきだと思う。

【感想】 子育て世代の方から色々話を聞けて、よい機会を頂けたと思う。私は生まれてからずっと姫路だが、私の地域は灘のけんか祭りですごく有名なので、姫路から出たいという風には全然思っていない。そういう文化の継承がすごく大事だと思う。

【感想】 子育てをされているからこそその悩みや改善点など、学校で学べない事をたくさん聞いた。今日聞いたことを踏まえながら、保育者として一人ひとりが育っていく事がすごく大事だと改めて考えさせられた。

【感想】 今回改めて姫路市内の子育ての支援について調べてみて、初めて知ったことがたくさんあった。今回のような機会が、中学生高校生の時からあれば良かったなというのをすごく感じた。独身の方も参加するとすごく勉強になるのではないかと強く思った。

【感想】 知らなかったことが沢山あり、知っている事はもっと深く知れて、参加して良かった。姫路の子育て支援を詳しく知らなかったこと、調べて分かったこと、今日聞いて分かったことを、これから自分の人生に活かしたい。